

NEWS RELEASE

2009年5月12日
コベルコ建機株式会社

コベルコ建機 2009年3月期 決算概要

【2008年度の概況】

国内の建設機械市場は、上期から公共工事や住宅関連工事、民間設備投資や中古車輸出などが低調に推移してきましたが、下期に入り、状況は急激に悪化しました。8月を境にドル、ユーロとも急速に円高傾向を強め、中古車輸出が滞り始めました。それに伴い新車への買い替え需要も一段と停滞しました。更に米国発の金融不安が世界中に伝播し、新車販売、中古車販売とも激減しました。

海外の建設機械市場においては、上期までは米国、欧州を除き、新興国、アジア各国等で堅調に推移しましたが、下期に入り金融不安による経済の停滞が世界中に蔓延し、好調だった新興国、東南アジア、中国なども需要が急落しました。

コベルコ建機グループは、急激に事業環境が変化する中、緊急対策を実施してまいりました。膨れ上がった在庫と仕掛品を削減する為、昨年10月から、いち早く在庫調整に着手し始めると共に、大型設備投資を凍結するなど緊急対策を実施しました。原材料費が高止まり傾向にある中、コストダウン、生産効率向上、販売価格の引き上げ・改善などにも取り組みました。しかし、急激な経営環境の変化を吸収出来るまでには至りませんでした。

一方で、将来にわたって競争力のある建設機械事業を構築していく為の布石については、着実に進んでまいりました。昨年6月に着手した中国四川省成都の移転工事も、予定通り順調に工事を進めています。本年3月には、将来の工場移転地として広島県五日市地区の土地約10haを購入することに関して、広島県議会のご承認を頂き、正式契約を致しました。大型設備投資は凍結している為、移転は先の事となりますが、世界のマザー工場としての競争力を強固なものにする布石は打つことが出来ました。

新製品の開発においては、排ガス第3次規制に対応し、かつ大幅な燃費低減を達成した最新モデルは世界各国のマーケットで高く評価されており、コベルコ製の低燃費・高性能という特長が徐々に認知されてきました。

顧客ニーズにきめ細かく対応し、中小型製品中心にモデルチェンジ、メニュー強化を行ないました。昨年10月には、油圧ショベル ACERA GEOSPEC(アセラ ジオスペック)7tクラスおよび13tクラスで、低燃費・低騒音の機能を有する事が評価され、2008年度「グッドデザイン賞」を受賞いたしました。

これらの結果、2009年3月期(2008年4月～2009年3月)の業績は、以下の通りとなりました。

< 2008年度通期の実績 >

{単位:百万円、()内は前年度比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連 結	当期(2008年度)	260,352 (7.6%)	1,593 (88.9%)	3,829 -	16,838 -
	前期(2007年度)	281,751	14,420	15,587	7,754

連結の売上高は、国内事業が1,034億円(前年度比 11.2%)、海外事業が1,569億円(前年度比 5.1%)、連結売上高の海外比率は 60.3%となり、前期に引き続き、連結で海外の売上比率が増加しました。

【2008年度の事業別状況】

国内事業

国内向けでは、公共工事が引き続き低調に推移し、下期に入ってから比較的に堅調だった民間設備投資も縮小し、市場全体が急激に悪化しました。また世界市場の冷え込み、円高の影響も相まって中古車輸出が鈍化し、加えて新規投資への手控え感が広まり新車更新需要が大きく減少しました。

厳しい環境ではありましたが、価格改善の努力を継続しつつ、排ガス規制対応の低騒音機種を市場に投入し、中小型機で商品ラインナップを強化する等、商品の差別化に努めました。具体的にはミニショベル「SK30UR」、「SK75UR」など、超小旋回機シリーズに加え、後方小旋回油圧ショベル「SK75SR+」を上市し、13tクラスに続き商品メニューを強化しました。

これらの結果、通期で大幅に販売台数が減少したものの、上期の生産能力の不足からくる受注残を下期に持ち越した事もあり、下期の落ち込みは業界水準よりなだらかに推移しました。

中国事業

ここ数年間、右肩上がりの需要が続いてきた中国ですが、世界中を覆い込んだ金融危機は、中国にも影響を及ぼし、年度後半には急速に需要が冷え込みました。総需要は、2008年1月から9月までは、各月とも前年実績を上回る伸びがあった為、通年では前年比12%弱の伸びを示しましたが、後半3ヶ月は、前年同期比4割弱の総需要の落ち込みがありました。

コベルコ建機グループも、昨年10月以降3ヶ月は減少幅は小さかったものの販売台数では前年同期比マイナスとなりました。2008年通年では前・中盤の好調をうけ、また四川大地震の復興地に立地していることもあり、販売台数は前年度比プラスとなりました。

中国政府が昨年11月に世界中で最も早く、4兆元の公共事業による景気回復策を打ち出した事、また迅速に金融緩和策を実施し資金の流動性を高めた事もあり、2009年度は、徐々にその効果が出てきて、建機需要は底割れする事無く、軟着陸に向かう事を期待しています。

成都工場の移転工事も、昨年6月の起工式以降順調に工事が進んでいます。中国市場は既に世界最大の建機市場に成長していますが、中長期的には更に継続して需要が拡大していく事が期待されており、将来を見据えた対応にも万全を期して臨んでいます。

海外事業(中国事業を除く)

海外においてはCNHとのグローバルアライアンスに基づき、当社の主担当地域であるAPACエリアを中心とした事業展開、欧米におけるCNHとの合弁事業の連携・強化、に取り組みました。

APACエリアのうち、東南アジア地域においては、今まで順調に成長してきましたが、世界的金融危機の影響を受け、需要はあるもののファイナンスが付かず、商談が成約しない状況に陥り、急速に販売が減少しました。原油価格急落の影響から代替エネルギー開発関連の需要にも影を落としました。

タイに新設した油圧ショベル一貫生産工場(『Thai Kobelco Construction Machinery Ltd.』(タイコベルコ コンストラクション マシナリー)の第二工場)は、慣らし運転をしながら、昨年後半より本格生産を開始する予定でしたが、現下の状況下、市場が回復するまで本格的な生産開始は先送りせざるを得ない状況となりました。

CNHの担当エリアである、米国は年度当初から低調に推移し、一方、前半まで堅調だった欧州は、年度後半から、全域で急速に市場が縮小しました。欧州全域で金融不安だけでなく、实体经济が大幅に停滞しており、厳しい状況になりました。

比較的に順調に成長してきたロシアや中東など新興国市場も原油価格の急落、金融危機の影響を受け、市場は急速に縮小しました。

【 2009年度の見通しと課題 】

2009年度は、世界各国で行なわれている経済対策、金融対策の効果が徐々に現れてくると期待していますが、急回復は望めず、建設機械需要は低水準で推移すると想定しています。

中国市場においては、4兆元の公共投資効果が徐々に現れつつあり、大崩れる不安が低下し底堅く推移すると想定していますが、機械の稼働率が比較的低水準に留まっている事から、今後の動向に今しばらく注視していく必要が有ります。中国市場は世界中の市場で需要が急減している中、継続的な成長を期待できる重要な地域であり、益々その重要性は大きくなってきています。現在、需要が低迷している東南アジア諸国やインドなども、金融不安による金融収縮の影響が低下すれば、比較的堅調なGDPに見合った需要の回復が期待出来る事から、アジア全体の安定的な成長を期待しています。

北米市場は、住宅投資の回復が来年にずれ込む可能性が強く、引き続き低調に推移すると思われる。欧州市場は米国以上に金融と実体経済が疲弊しており、回復には今少し時間がかかると予想しています。中長期的にインフラ整備や資源開発などで需要の拡大が期待されるBRICsなど新興国市場は、今後も成長が期待されるものの、2009年度の世界の建機需要は、低水準で推移すると見込まれます。

世界的に需要が減少する中、コベルコ建機では、製造業の原点に立ち帰って、「ものづくり力」を強化してまいります。品質向上に加え、生産性30%向上活動、取引先と一体となった原価低減(VE)活動などを通じてコストダウンを地道に展開してまいります。営業面では、国内2販社体制への統合効果を追及するとともに、成長マーケット、とりわけ中国、アジア地域、新興国マーケットをグローバルな視点で再構築してまいります。

コベルコ建機グループにおいては、本年3月で前中期経営計画(2006~2008年度)が最終年度となり、本来ですと新たな中期計画をスタートさせる年度となりますが、先ずは、百年に一度といわれる金融危機、経済危機の状況への対応に集中し、中長期的な世界のマーケットの展望を見据えられるようになった段階で、改めて中期計画に取り組む事としました。

< 2009年度通期の見通し >

{単位:百万円、()内は前年度比}

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	224,800 (13.7%)	5,900 (+270.4%)	4,900 ()	2,300 ()

2009年度における為替レート前提: 1米ドル=90円、1ユーロ=122円

* 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上

会社概要

社名	コベルコ建機株式会社
英社名	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.
創立	1999年10月1日
本社所在地	東京本社: 東京都品川区東五反田2-17-1 (代表TEL: 03-5789-2111)
資本金	160億円 (株)神戸製鋼所 80%、CNHグループ 20%
代表取締役	小谷 重遠(こたに しげとお)
事業内容	建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
ホームページ	http://www.kobelco-kenki.co.jp

平成21年3月期 決算業績概要

会社名	コベルコ建機株式会社			
代表者	代表取締役社長	小谷 重遠		
問合せ先責任者	理事 企画管理部長	三木 健	TEL :	03 (5789) 2111
決算取締役会開催日	平成21年 5月 11日			
親会社名	株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率：80%)			
	CNH Global N.V. (当社株式の保有比率：20%)			

1. 平成21年3月期の連結業績(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(1) 連結経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
21年3月期	260,352	1,593	3,829	16,838
20年3月期	281,751	14,420	15,587	7,754

	一株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	%	%	%
21年3月期	52 61	50.8	1.7	0.6
20年3月期	24 23	13.4	6.7	5.1

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	一株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期	215,773	37,973	15.3	118 66
20年3月期	232,340	63,026	24.7	196 95

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
21年3月期	23,768	3,901	29,294	18,668
20年3月期	7,334	13,744	4,410	20,880

2. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
連結(通期)	224,800	5,900	4,900	2,300

*上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。